

登録コード	E2175900	開講年度	2026				
授業科目	経済学基礎					担当教員	藤崎 聖也
英文授業名	Foundation of Economics					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・5時限	対象学生	
講義室	教育N101講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	【達成目標①】経済学的な考え方を使って、公教育である中学校社会科（および高校公民科）で扱うことも視野に入れながら社会現象を吟味できるようになる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	【達成目標②】中学校社会科（および高校公民科）における経済教育の背景にある、経済学の基礎知識を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	1 経済学の中心を為すミクロおよびマクロ理論の基本、経済学の歴史などを概観する。 2 授業中には随時、当該授業のテーマに即した演習活動（個人またはグループ）。						
(5)授業計画	＊内容や順序を変更する可能性はある。 ＊【STEAM】特定の回というわけではなく、随時統計を用いたり、必要に応じて計算をしたりしながら理解を深める（それを各自の問題発見・解決につなげる）プロセスを含む。 ＊教育実習の為に欠席した学生の補講方法：e-Alpsで該当回の資料を読んでおく。その上で、補講を実施するか個別に質問に応じるかは、当該学生の人数や事情に応じて検討するが、いずれにしてもそれを理由にした欠席での理解差は最小限にすることを目指す。 ＊原則として現地開講だが、ビデオ会議システムを併用する場合あり。日程・行事など諸事情を勘案して判断するため、具体的にいつになるかを現時点で言明することは難しいが、多くても3回程度。併用時は1週間前までに受講生に予告する。 第1回：イントロダクション、需要・供給曲線 第2回：市場分析 第3回：市場の失敗 第4回：所得と物価 第5回：貨幣 第6回：財・貨幣市場を関連づけるマクロ経済分析 第7回：労働と物価変動を含むマクロ経済分析 第8回：国際金融 第9回：国際マクロ経済政策 第10回：中間振り返り（時期は、内容や学年暦に応じて設定） 第11回：国際貿易 第12回：ゲーム理論 第13回：行動経済学 第14回：経済学史（最後15分間は授業アンケートを実施） 期末演習						
(6)成績評価の方法	1）期末演習（55点）：達成目標①、②の到達度を測る 資料等は参照可能。対面・非対面のどちらの場合でも、指定日時・期間中に取組んで提出してもらう形式とする。 2）授業点（30点）：達成目標①、②の到達度を測る 演習活動で使用する授業シートを提出しない、又はしても不十分な内容（例：グループで取り組む必要がある時に、その痕跡がないなど）であれば1回につき最大2点減点となる。 3）予習点（15点）：達成目標①、②の（中間）到達度を測る 履修登録期間の初日でもある初回はなし。2回目以降、予習資料を読んで気になる事柄・キーワードを当該授業開始前までにe-Alps上に示すフォームに書き込む。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	1）期末試験 （i）授業内容に沿った基本問題、（ii）授業内容を別視点で考えさせる応用問題 （i）を多く解ければ「水準にある」、それを満たした上で、 （ii）を少しでも解ければ「やや上にある」、 （ii）を半分程度解ければ「かなり上にある」、 （ii）を多く解ければ「卓越している」						

(7)成績評価の基準	2) 授業点 授業内の演習に積極的に取り組み、それをシートの記述で示す（分量、授業内容の理解）。 10回できれば「水準にある」、11回できれば「やや上にある」、 12回できれば「かなり上にある」、13回以上できれば「卓越している」 3) 予習点 授業の事前資料を読み、気になることをeAlpsに書き込む（授業に全く関係ないと判断し得る書き込みは得点にカウントしない）。 6回できれば「水準にある」、7回できれば「やや上にある」、 8回できれば「かなり上にある」、9回以上できれば「卓越している」 ＊上記は1つの目安であり、総合的な内容を鑑みて評価することに御留意頂きたい。
(8)事前事後学習の内容	この授業は90時間の学修を必要とし、60時間以上の時間外学習が求められる。 【事前】2回目以降、e-Alps上に授業数日前に資料を開示予定。e-Alpsに書き込む内容を考えながら、理解度合いを明確にして授業に臨む。 【事後】「復習は最高の予習」でもある。授業を聞いて、改めて資料を見直したり、「復習問題」などについて再考したりする。また、資料で紹介される参考文献のうち、関心のあるものを読むとより理解が深まるだろう。（主に）中学校、高校の教科書の経済関連箇所を、本授業の内容と突き合わせて検討してみるのもよい。 【事前・事後共通】必要があれば随時質問する（メール、研究室訪問など）。
(9)履修上の注意	1. 経済のメカニズムを理解する為の思考ツールとして、数学的手法を少々用いるが、加減乗除ができるならばそう案ずることはない。 2. 他の学生に配慮した態度をとるよう努める。例えば、講義に関係ない話を大声でしないことや、携帯電話の音量を極力小さくすることなど。 3. オンラインツールを使いながら演習を進めるので、パソコンなどを用意して授業に臨むこと。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	○オフィスアワー：M209研究室。平日は随時。面会を確実にしたい場合、下記に事前連絡を。 ○連絡先：内線＝4096、メール＝fujisaki[at]shinshu-u.ac.jp（[at]は@に）
【教科書】	指定しない。e-Alps上に授業数日前に資料を開示予定。
【参考文献】	指定しない。授業資料にリーディング・リストを適宜開示予定。